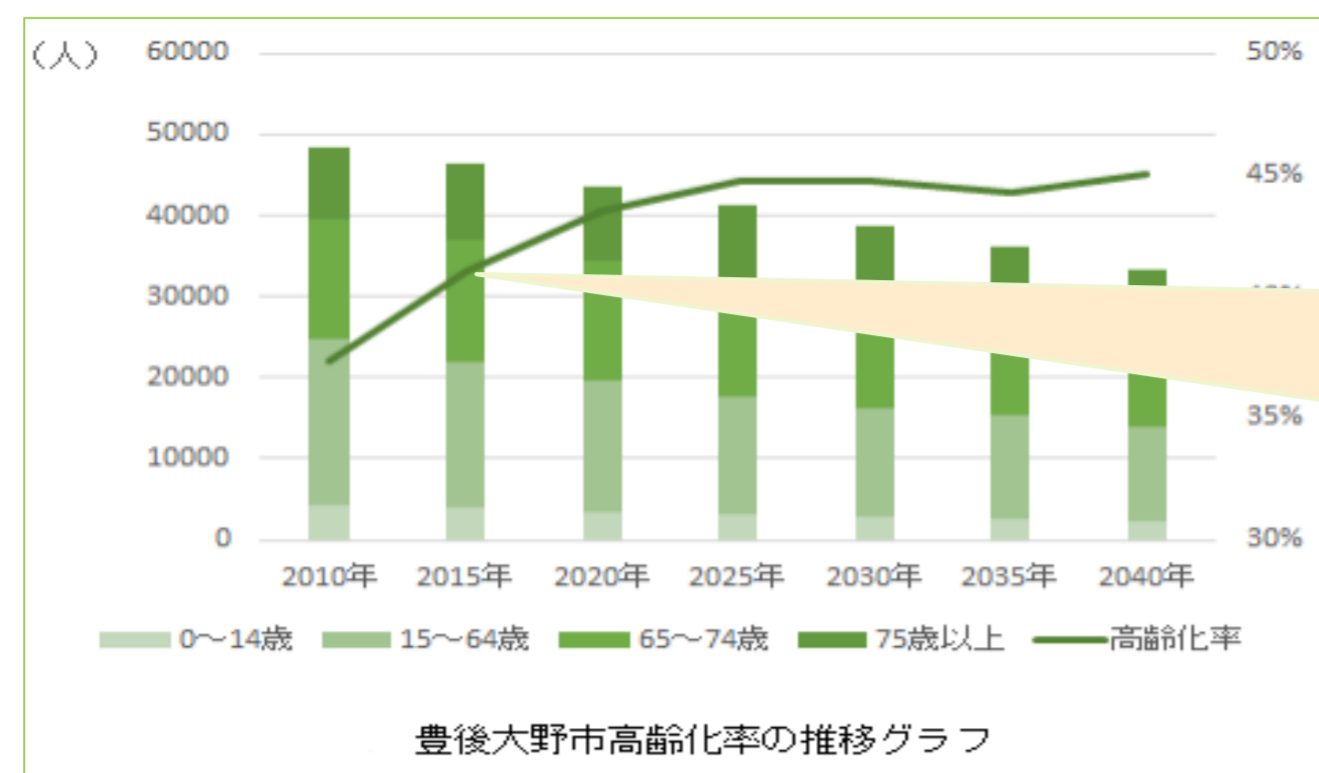


地域人材による地域主導の公共交通利用促進に関する研究（第3弾）

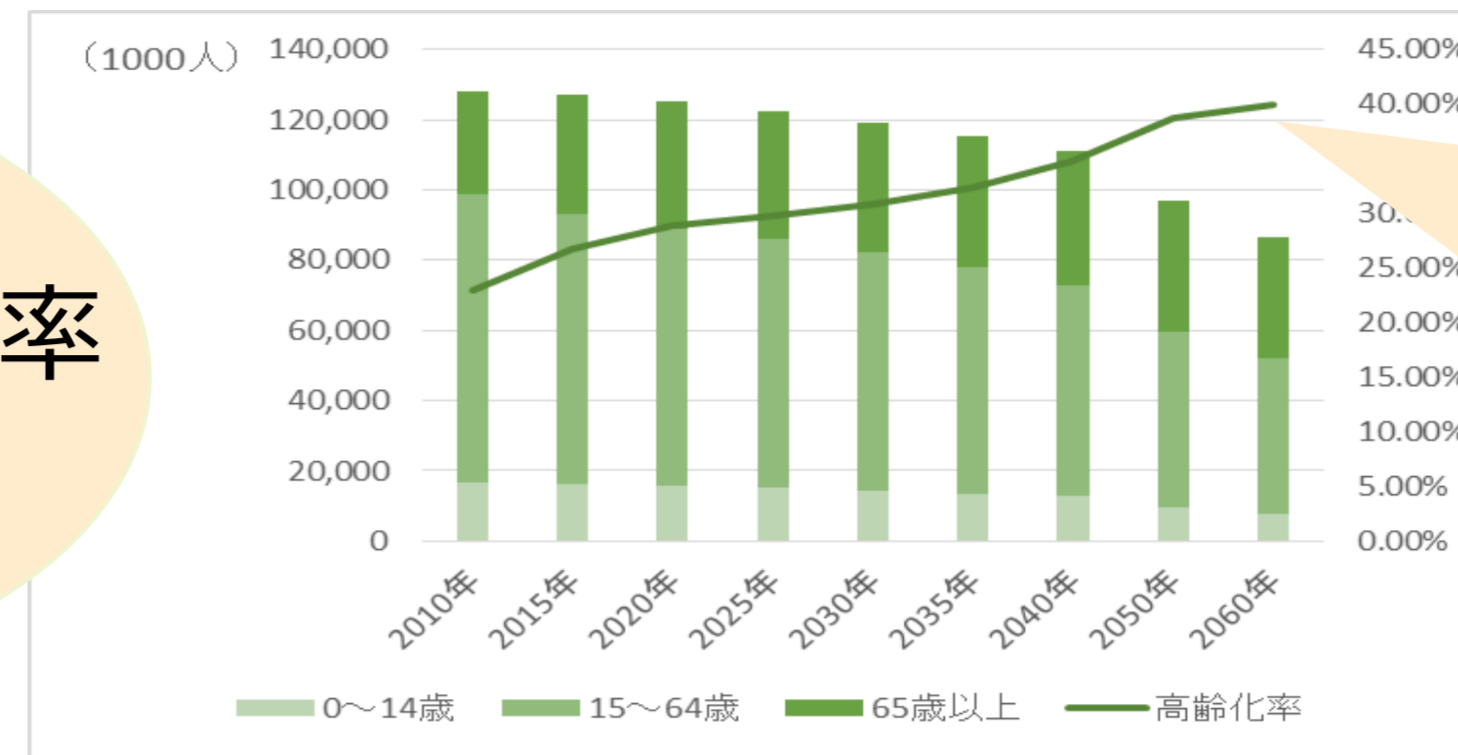
－ 地元高校生と地元大学生の協働による「大人の社会見学」事業の新たな展開に向けて－

阿部幸記・安部直樹・大泉奈津子・川畑絵美子・坂元春香・辻佑磨・三浦亮(大分大学経済学部経営システム学科交通論研究室)
伊東正史(豊後大野市まちづくり推進課)・白井敏行(大分県立三重総合高校メディア科学科)
白石悦二・高峯高(日本工営株式会社福岡支店)・大井尚司(大分大学経済学部門)

背景



豊後大野市
2015年高齢化率
41.1%



全国
2060年高齢化率
39.9%

今の豊後大野市は将来の日本が抱える問題に直面！

現状

豊後大野市清川町・・・

人口**1960人**・高齢化率**45.96%**

☞ 少子高齢化による過疎化が深刻化

☞ **公共交通機関の路線維持が難しい状況**

	H26年度	H27年度	増減	前年度比
コミュニティバス	2401人	2192人	△210人	△8.7%
あいのりタクシー	375人	272人	△103人	△27.5%

狙い

その問題解決のために高校生と連携して「大人の社会実験」を実施

- 路線維持のために住民主導の**内発的な利用促進**を促す
- 将来、地域の担い手となる**高校生**に地域の問題に目を向けてもらう

『大人の社会見学第3弾』

地元高校生・自治体・大学生による利用促進と維持体系の構築

「利用体験・買い物支援・交流・聞き取り調査」

「大人の社会見学」実施風景



利用体験



買い物支援



レクリエーション



聞き取り調査

「大人の社会見学第3弾」

「保健講話」

保健師の方に健康の秘訣を楽しく面白く教えていただきました！



「レクリエーション」

参加者の方と一緒に「色付き鬼」等のゲームをし世代を越えた交流を楽しみました！



「買い物支援」

参加者の方の荷物を持ったり楽しく会話をしながら買い物の手伝いをしました！



考察

アンケート結果から、コミュニティは存在するが路線維持のために地域住民同士で誘い合って乗るほど強固なものではない

☞ **コミュニティの強化が必要**

そのためには各主体がそれぞれの役割を果たすことが重要である

まとめ

イベントの評価は高いが、ただ参加者層に課題も

- ・ きっかけは必須 = 「コミュニティ」のための移動は重要
- ・ 引き出したい層の参加が皆無 = 「世話になる」ことへの抵抗

公共交通の必然性・意識が弱い

- ・ 「身内依存」「自己調達」 = このままでは維持は難しい？

高校生(地元)の巻き込み方

- ・ コミュニティ形成の「接着剤」に期待⇔郷土愛の低下という課題も



来年乞うご期待！

